児童福祉施設における性的問題に関する研究（1）

－児童養護施設職員と情緒障害児短期治療施設職員の子どもの性的問題への意識－

○三後美紀[1]・坪井裕子[1]・米澤由実子[2]・柴田一匡[3]
（[1]人間環境大学・[2]岡崎平和学園・[3]プティ・ヴィラージュ）

１．問題と目的

近年，児童福祉施設における性的問題への対応が課題となっている。本研究では，児童福祉施設職員がどのように性的問題をとらえどのような困難を感じているのかを調査し，職員の性的問題の意識の特徴を明らかにすることを目的とする。

２．方法

（１）調査協力者　協力の得られた X 県内の児童養護施設（以下養護施設）16 施設，全国の情緒障害児短期治療施設（以下情短）28 施設に勤務する施設職員 738 人（養護施設：男性 92 人，女性 153 人，不明 2 人　情短：男性 220 人，女性 250 人，不明 1 人）**（２）調査時期**　2012 年 5 月～10 月 **（３）調査方法**　施設ごとに質問紙を配布し，郵送あるいは手渡しにて回収 **（４）調査内容**　①デモグラフィック変数（性別，年齢層，職種，経験年数，担当児童の性別，担当児童の年齢層，施設種別，施設形態）②子どもの年代別の性的問題の意識：藤澤・西澤（2006），滝川ら（印刷中）を参考に作成した 26 項目（4 件法）園児・低学年・高学年・中学生以上を想定して回答を求めた　③性的問題についての意識：榊原・藤原（2010）を参考に作成した 27 項目（4 件法）本研究ではこのうち性的問題についての意識の分析を行う。

３．結果

（１）尺度の検討　性的問題についての意識をたずねた 27 項目に対して因子分析（主因子法，Promax 回転）を実施し抽出された 5 因子から「指導方法（７項目）」平均値 2.78，*SD* 0.51　α=.77，「対人関係との関連（５項目）」平均値 3.14，*SD* 0.56　α=.75，「障がいへの対応（２項目）」平均値 3.35，*SD* 0.68　α=.83，「異性の子どもへの対応（２項目）」平均値 3.02，*SD* 0.79　α=.90，「問題の見えにくさ（３項目）」平均値 3.32，*SD* 0.50　α=.56 という下位尺度を得た。

（２）施設種別と他の要因からみた職員の意識

①性別での検討　性的問題についての意識の各下位尺度を従属変数に，施設種別（養護施設，情短）と性別（男性，女性）を独立変数とした 2 要因分散分析を行った。その結果，養護施設では「指導方法」の得点について男女差がみられ，女性が男性よりも有意に得点が高いことが示された。

②経験年数での検討　同様に施設種別と経験年数（「5 年以下」，「6 年から 10 年」，「11 年以上」）を独立変数とした 2 要因分散分析を行ったところ，「指導方法」において「5 年以下」は「6 年から 10 年」と「11 年以上」に比較して有意に高かった。また，「対人関係との関連」においては情短が養護施設よりも高く，経験年数では「5 年以下」が「6 年から 10 年」よりも低いという結果が得られた。さらに「問題の見えにくさ」において「5 年以下」は「6 年から 10 年」と「11 年以上」に比較して低かった。

③職種での検討　同様に施設種別と職種（指導員，保育士，心理職，FSW，その他）を独立変数とした 2 要因分散分析を行った。「対人関係との関連」では，指導員・保育士・その他よりも，心理職と FSW が有意に高かった。また，「障がいへの対応」は保育士が指導員よりも有意に高いことが示され，「問題の見えにくさ」は，指導員・保育士・心理職・FSW がそれぞれ，その他よりも有意に高かった。

４．考察

経験年数 5 年以下の職員は性的問題の指導に困難さを感じており，また，性的問題の背景に対人関係に関わる問題を想定することや，性的問題そのものの捉えにくさを意識することが，経験 6 年以上の職員に比べて少ないということが明らかとなった。一方，心理職や FSW は対人関係の問題に目を向けるなど他の職種と異なる意識を持つことが示された。さらに，情緒障害児短期治療施設の職員は児童養護施設の職員よりも，性的問題の背景にある対人関係への意識が高いことが明らかとなった。これらのことから，児童福祉施設での職員の経験に応じたサポート体制の充実，心理職や FSW の活用，施設種別の特徴に応じた研修のあり方について検討する有用性が示唆された。